

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
79	川崎市立平小学校	松沢 隆

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
心豊かでたくましく、実践力のある子供の育成 ・元気な子 ・考える子 ・やさしい子 ・がんばる子	・学習を深め、確かな知性を育てる(自学・自習) ・行いを振り返り、健全な心身を育てる(自主・自律) ・心を磨き、豊かな感性を育てる(共生・協働) ・保護者、地域に開かれた学校(現代的課題)	・各教科での基礎基本の定着 ・自主性の尊重 ・他者理解と助け合いの精神の育成 ・SDGsの教育活動全般での取組

評価項目	具体的な取組	成果(○)と課題(●)	具体的な改善策
学習	学習指導	○児童のアンケートでは学習に対して好きと答える割合が多く、概ね学習活動を楽しんでいることがうかがえる。 ○学習活動に対して職員間での支援で学習の充実が図れている。 ●学級間、学年間の共通理解や学習のつながりをより深めていく。	・授業の流し方や板書のパターンなどある程度そろえられると児童は分かりやすいのではないかと。 ・GIGAの活用や児童が扱えるツールなどをそろえると学年が変わってもスムーズに進む。 ・6年間のカリキュラムのつながりを意識して学習を進めていく。
	カリキュラムデザイン	○総合的な学習の時間で取り組む畑での栽培活動を前学年で取り組むこととし、活動のねらいや流れを明確化、資料化し、引き継げるようにした。 ○各学年の教科におけるSDG'sにつながる活動を取り出し、カリキュラムに明示した。 ●今後活動を重ねながら、更に内容の充実、精選をしていく。	・SDGsに対し各教科でそれぞれ内容が盛り込まれているが、学年内の教科間や学年間で重複している内容やまとめて効果的に取り組める活動などを意識していく。
	短時間学習	○短時間学習の時間の確保と定着のため、週3日決まった曜日に設定し、習慣付けを図った。 ○朝決まった時間に短時間学習を設けているため、児童に学習の習慣が定着した。 ●学年間で使用したワークシートなど教材や内容の共有が進むと更に取り組みやすくなる。	・取り組んだ内容や活用した教材を保存引き継ぎするか、共通で使える保存方法にし、毎年充実させていく。
	授業力向上	○各学年、学習活動内で児童同士がつながる活動を意識して、様々な教科の研究に取り組んだ。 ●今後学年間の縦のつながりを意識した取り組みも必要ではないか。	・校内研究のテーマに対して教科を固定するなど、学年間のつながりを意識できる取り組みも考えられる。
	代表委員会	あいさつをしようと呼びかける。 異学年と交流する活動を増やす。	あいさつを広めるために、運営委員会が中心となってあいさつ運動をした。 運動会で世話になった6年生に対し、学校全体で、感謝の会を開いた。

特別活動	委員会活動	常時的活動だけでなく、創造的な活動を増やしていくように心がける。	委員会朝会を設定し、各委員会が活動内容を報告したり、イベントを行ったりできるようにした。そうすることで、どの委員会も、活動内容に幅をもつことができるようになった。	まだ、常時的活動がメインになっている委員会が多いので、子どもの創造的活動を増やせるように、教師側も手立てを考えたり、呼びかけたりしていく。
	SDGs	代表委員会の議題として取り上げ、全校を巻き込んだ活動を考えていく。	代表委員会で話し合い、食品ロスについて全校で取り組んだ。委員会も巻き込みながら、給食の残量が取り組みによって、どのくらい減っていったのかわかるようにし、全校のやる気を盛り上げていった。	来年も継続していきたい。次年度は、違うゴールを狙った取り組みっをしていくのもよい。
支援教育	他者理解	・道徳、共生・共育、さまざまな活動を通して、友達の気持ちや考えを知り、理解しようとする。	○学年で児童の人間関係についての情報を共有している。 ○異学年交流を通して、違う年齢の児童とかかわる機会を意図的にもつことができた。 ○校内研究にもなっているが、授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れることができた。 ●トイレの使い方が課題(他者意識が薄いこともある)	・今年度は異学年交流ができるようになってきたので、これからも積極的に実施していきたい。 ・トイレの使い方に関しては、次に使う人のことやみんなで使うものという意識が薄いので、そういうところから他者意識ももたせていきたい。また、道具を元に戻すことなども、まずは大人の意識を高めたい。 ・LINEでのトラブルへの対応として、来年度も情報モラル教室を実施する。オープンスクールなどで実施し、保護者とも共有していきたい。
	支援教育	・通常級における特別に支援が必要な児童について、保護者や専門機関、児童本人とも相談しながら、一人一人に合った支援をしていく。	○外部の専門機関(安住先生、中央支援学校、通級など)や巡回カウンセラーとも連携しながら、支援の方法を探ることができた。 ○GIGAなども活用しながら、保護者、児童本人とも相談し、一人一人に合った支援を実践している。(書くことが苦手な児童→GIGAの活用、鉛筆、筆記補助具の活用) ●教室の中で個別に支援が必要な児童がいるが、それに対応する担任の支援、もしくは、担任以外の支援者がもう少し必要である。教室の中でいかに支援していくかが課題である。	・今後も外部機関の力をかりながら、教室での支援の方法を教えてもらいたい。 ・自分の思いを言葉で伝えることに時間がかかったり、難しかったりする児童がいる。巡回カウンセラーを児童にも活用していきたい。
	特別支援教育	・特別支援学級の充実を図る。一人一人に応じた個別支援計画の作成、保護者とのコミュニケーションを積極的に図る。	○送り迎え時、連絡帳などを通じて、保護者とコミュニケーションをとりながら、児童一人一人の支援をしている。 ○中央支援学校の先生に定期的に来てもらい、支援の仕方の指導、助言を受けている。	・保護者と連携しながら、児童の支援にあたっている。今後も情報共有しながら児童一人一人に応じた支援をしていきたい。

<p>児童の安心安全 いじめ防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平小いじめ防止基本方針を周知し、いじめの未然防止、早期発見に組織的に取り組むようにする。 ・平っ子の生活(ルール)を適宜確認する。 ・学校生活アンケートを定期的実施し、児童の困り感を把握し、早期に対応する。学校巡回カウンセラーを周知する。 	<p>○平っ子の生活の月1回の点検、確認をしている。 ○学校生活アンケートによる聞き取りを定期的に行うことで、児童の困り感に気づき、対応することができた。学年でも共有している。 ○児童支援部会で各学年の様子を共有している。学校全体で児童を見守る体制ができている。 ○毎月の生活目標についてクラスで具体目標を決め、取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では、アンケートに書かない児童、聞いても言えない児童がいる。SOSの出し方教室などを通して発信してもいいことを周知していきたい。担任も積極的に児童の様子を見ていき、児童の困り感を自ら見つけていきたい。 ・児童の情報を記録し、次年度に確実に引き継いでいきたい。
<p>GIGA</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で積極的に活用する ・学校業務の効率化を推進する 	<p>○児童は、学習では、端末を利用し、互いの意見を出し合ったり、図工等の作品を共有しあったりすることができた。 また、特別活動の係活動や、委員会活動、今月の生活目標等の紹介などにも利用した。 ○授業や学校行事をオンラインで結ぶことで登校への不安がある児童や出席停止の児童とのつながりをもつことができた。 ○職員間では、会議の資料の共有化や校内授業研究での意見交換、アンケート集約などで活用することで、時間と作業効率があがった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との情報共有は、日常的に利用し始められてきた。次年度は、自分自身の振り返りや今後の道筋などに利用できるように教育計画を進めていく。 ・引き続き、「誰一人取り残さない」を根底に、本校の児童へのオンラインを利用した繋がりを実践していく。 ・教員を中心としてクラスルームでは、情報共有は積極的に利用できたが、次年度はGIGA端末を利用して、全教職員で予定や資料等を共有し、さらに業務改善を図っていきたい。
<p>地域に開かれた学校</p> <p>情報配信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報提供のための各種たより、学校ホームページ等を有効活用する ・保護者へ積極的に情報発信していく ・校長だより、職員室だよりを発行する 	<p>○地域の方へは、学校の諸活動の伝達として紙媒体とホームページの掲載を行うことができた。 ○保護者へは、ミマモルメを利用して、校外学習での子供たちの様子や、連絡事項の周知など発信してきた。 ○校長室だよりは、今まで月に一度の発行であったが、子供たちの様子を保護者に即日情報配信するために、学校ホームページに「校長日記」として掲載する方向に変更した。 ●学校ホームページの校長日記は、子供たちの学校生活の様子を毎日掲載してきた。しかし、まだ認知度が低く、効果的な本校の教育活動のアピールとはなっていない。</p>	<p>○地域の方だけではなく、保護者に対してもホームページでの情報提供を積極的に取り組み紙媒体がら移行していく。 ○子供たちの校外学習の様子は継続していき、さらに登下校中の安全、自然災害等の連絡も即時対応していく。 ○学校ホームページの校長日記は、今後も保護者と担任との関係づくりに繋げていきたい。さらに、校務分掌に「情報配信」担当を全学年に位置付け、学年からも積極的に発信していく。</p>

校現代 的課題	SDGs	・教育活動全般で取組む	<p>○児童が自分たちでできることとして、委員会活動では、給食委員会が「食べ残しをなくそう」(食品ロス)と呼びかけ、同メニューの食べ残しの比較を毎日報告した。</p> <p>○総合的な学習の時間を中心に、環境問題や畑での食農教育から、身近な取組を知り、生活に影響を与えた。</p> <p>○今年度着任した職員が、朝会の時間を利用して自己紹介を兼ねて自身のSDGsの取組を全校児童に紹介した。児童のSDGsに対する関心や身近な問題であることを投げかけた。</p> <p>●教職員は、個人としての取組に終わらず、学校として全教職員で何ができるのかを共有していくことが必要である。</p>	<p>・児童の取組は、今後も各種委員会活動を中心にさらに、継続的にできるよう支援していく。5学年の総合的な学習の時間での「環境学習」についての学びでも校内に積極的に呼びかけていく。</p> <p>・畑での食農教育では、知識としての習得で終わるのではなく、自分の体を通しての活動として考える場としていきたい。</p> <p>・教職員は、学校として全員で何ができるのかをしっかりと共有する。本当の意味での「パートナーシップ」として子供たちの未来のために取り組んでいきたい。</p>
	保護者・地域との連携	<p>・子供を中心に捉えた、学校・地域・保護者の役割を分化する</p> <p>・地域協力者との積極的なかわりをもつ</p>	<p>○図書ボランティアの読み聞かせや地域の学習協力者と教師が事前に打ち合わせをとった。学習場面でのそれぞれの立場での支援や活動などが明確し、ねらいに迫ることができた。</p> <p>○毎日の登校を見守っている方への挨拶や学習協力者との作業などを通して、学校教育に有意な人・もの・場所の提供を受けることができた。</p>	<p>・学習活動の再検討を確認し、保護者を中心とした学習ボランティアを募ることで、子供たちの学び保障をしていきたい。</p> <p>・地域の方々の学校に対する思いを真摯に捉え「地域の中の学校」として、地域とともに今後も発展していく。子供自身も地域の方々から見守られている、愛されているという心を育てていきたい。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>・授業の様子を参観した際、どのクラスも落ち着いた態度で学習を進めていた。また、学習している様子を参観してもらえることを嬉しそうにしている子供たちの姿が多く教室で見られた。ダンスの学習では、先生も子供たちと一緒に踊っている姿がよかった。</p> <p>・児童会の取組について、子供たちがGIGA]端末を活用してプレゼンする姿に、感心した。日頃から端末を活用していることや、学習などで発表する場を設定するなど、普段からの積み重ねがあっただと感じた。</p> <p>・校舎内の環境がよく整備されている。廊下や階段にゴミがなく、掲示物なども、ていねいに貼られていた。</p> <p>・あいさつ運動も、校内はもちろん、地域の中でも、子供たちから進んで行っているようだ。</p> <p>・GIGAスクール構想の推進と同様に、読み聞かせや読書活動に、今後とも力を入れてもらいたい。</p>	<p>・本校着任2年目となり、今までの学校運営を継承しつつ、自分が目指している学校運営を推進してきた。今年度は特に、「平小グランドデザイン」を作成し、教職員はもちろん、保護者の方、地域の方にも本校の目指している教育活動が伝えられるよう学校HPにも掲載してきた。また学校HPでは、校長日記を日々更新することで、子供の姿を通して具体的な取組を紹介してきた。また、学校だよりの文章の中でも学校教育目標について触れてきた。</p> <p>・3つのプロジェクト(学習・特別活動・支援教育)を組織として立ち上げた。総括教諭をリーダーとして全教職員が学校運営を担っている意識がもてるように、一年間取り組んできた。次年度も、引き続き、プロジェクトリーダーが核となり、子供の実態、学校の現況から次年度の重点を定め、子供たちの豊かな学校生活のために邁進してもらいたい。</p> <p>・子供たちが安全で安心して学校生活が送れるように、施設環境面はもちろん、言語感覚の整備も、引き続き取り組んでいく。さらに、保護者の方、地域の方に本校の教育活動を積極的に伝えていくために、情報配信の部署を新設する。</p>